

News Letter

第12号

 株式会社技術トランスファーサービス
秋山国際特許商標事務所

[2023年2月22日発行]

CONTENTS

- P1 常時変化する知財戦略
- P3 当事業体での魅力 “調査能力を活かした弁理士”
- P4 IPデータ集 No.13のご案内
- P5 半導体ファウンドリー2社の出願動向
- P8 登録調査機関部門 検索者のこぼれ話①（区分18：熱機器分野）
- P9 登録調査機関部門 検索者のこぼれ話②（区分24：生命工学・医療分野）
- P10 社員紹介、お知らせ、編集後記、会社・事務所情報

今号で「News Letter」は12号となります。この「News Letter」は社内報の面と、社外報の面の、二面を併せ持つものです。News Letter の記載内容については、正確さに重点を置き、社内情報についても触れつつ、特定情報の秘密保持を図りながら読者の皆様に興味を湧かせる読み物として提供できるように心がけています。

常時変化する知財戦略

今回は、知財戦略について、より具体的に検討する前に、どのような観点で知財戦略を構築するかについて考えてみよう。知財戦略については、多くの論者が、経営戦略（事業戦略）、開発戦略を考慮して、策定することを提案している。私は、知財戦略は固定的ではなく、定型の道筋を流れるもの（フロー）でもなく、各社の置かれている状況に応じて、常に変化するものを前提と考えている。また知財戦略の策定と戦略を遂行する上での管理関係（これも機会があれば述べてみたい）も重要である。

ここ数年の各種世界情勢の変化（日本を取り巻く内外経済、社会環境：CO₂・温暖化、エネルギー関係）は、知財戦略にも影響を与えている。

例えば、2019年後半からのコロナ禍、2022年2月以降のロシア-ウクライナ戦争、この戦争に関連したエネルギー需給変化（ロシア産エネルギー関連の影響）及び食料需給逼迫、円安（対外貨）、情報流出リスク（サイバー攻撃やガバメントアクセス）、自由な情報流通による経営メリットを考慮した企業の情報統制戦略等々、単に一企業で対応できる枠を超えた変化の影響が急激に生じている。

従前は経済状況及び経済のグローバル化（例えば WTO 等）に合わせ、各社の置かれている状況に応じて、各社ごとに知財戦略（地産地消や開発拠点等を考慮）を構築することが主眼であった。しかし、世界情勢の変化は、経済状況に即して対応した知財戦略（例えば生産が安価である地域の選択を前提とした知財戦略）から、各国の政治状況・軍事状況を考慮し、単に経済の観点を加味した知財戦略を構築するだけではなく、カントリーリスクをも加え、各種複雑な条件を加味した知財戦略構築が必須になりつつある。

日本における環境でも、製造・販売地域の変化があり、経営に重大な影響がある海外生産の選択戦略（技術流出リスクを考慮）、経営に直結する重要な技術流出の観点から海外生産の対象物の選定、働き方の多様化（テレワーク、サテライト、勤務地）など、各種環境が変化しているなかで、知財戦略も当然、影響を受ける。

特に取引先（自社の顧客が B 又は C）の範囲として B2B、B2C、という単純な構図ではなく、自社の取引における位置が、B①2B②2C、あるいは B①2B②2B③2C の、どの位置の B (B①, B②, B③) に相当するのかを明確に把握すると共に、その拡張として、将来の位置がどの B になる可能性があるのかを確認（推測）することも重要である（場合によっては C がないことがある）。

特に、経営判断において、将来の方向性を踏まえると、外部（例えば我々弁理士）にいる立場では、直接情報を得ることができない（あるいは困難である）ため、我々が知財戦略のアドバイスを行う場合には、秘密情報（経営及び事業の方向性）の開示が重要である。また、企業の知財担当者であっても、企業の経営判断において、容易に経営判断の方向性を知る位置にいるとは限らない。

特許庁及び経済産業省を含めた公に開示されている技術分析は、一般論に過ぎず、自社にそのまま適用できるわけではない。あくまでも参考であり、方向性の確認におけるサンプルに過ぎない。

一般論として、知財の基本的戦略の1つである権利獲得戦略（プロセキューション）においては、オープン＆クローズ戦術という部分と、権利獲得戦略で獲得した権利の活用の場面で、どのように活用するかの戦術を確認しておくことも重要である。

例えば、汎用的技術については、特許（公開が前提となる）を活用し、コア技術（コアコンピタンス技術）は参入障壁構築の為にノウハウ（秘密であることが必須。秘匿化）にするという使い分けの選択を行うなどの方針が検討対象となる。

さらに日経ビジネス 2022.12.05 におけるキヤノンの記事では、①検証可能性②他社到達可能性③技術的重要性④公共性⑤経済安全保障の観点から各種戦略を検討する（P30）などが伝えられている。

そして、これらの「戦略」を専門とする人材「知的財産アナリスト」のテリトリーである企業経営・ファイナンス・知的財産に関する専門知識を駆使し、国内外の他社・自社の各種知的財産関連情報の収集・分析・評価・加工、知的財産あるいは企業の価値評価等を通じて、企業の戦略的経営に資する情報を加味して知財戦略・戦術を構築することになる。

当然ながら、開発技術の権利獲得や他社（第三者）対応手段等、従前と同様に日々の活動で実施することが要求される地道な活動は最も重要である。

また、知財は、特許（技術）だけではなく、商標、意匠、著作、不正競争（独禁）など多くの概念を包括し、公に認められて権利となるもの、公に認められなくても保護の対象となるもの、など、守備範囲（テリトリー）の確認と、それぞれに対応した手段の構築など幅広い活動が求められる。

今回は、常時変化する知財戦略について、どのような観点で検討するか、の概略について私論を示したが、機会があれば、より具体的な観点と、実務に沿った知財戦略及び知財戦術について、試論を提示したいと考えている。

例えば、

プラン A：今までと同様な経済のグローバル化における通常の知財戦略及び戦術

プラン B：A に加えてカントリーリスクを考慮した知財戦略

プラン C：通常の経済活動に加えて、世界及び日本の政治的なリスクを考慮した知財戦略

それぞれについて、プラン A、プラン B、プラン C の内容をもう少し考察し、さらにプラン A からプラン B / C に変更するタイミングについても、機会があれば、検討してみたい。

株式会社技術トランスファーサービス 代表 弁理士 秋山 敦

**特許調査のプロ集団がお客様のニーズに合わせた
調査・解析で知財課題を解決します
検索競技大会にて当社より受賞・認定獲得！**

株式会社 技術トランスファーサービス
Technology Transfer Service Corporation
【東京オフィス】東京都港区赤坂1丁目12番32号 アーク森ビル31・33階

創立41年の信頼と実績

特定登録調査機関

QRコード

弊社ご提供サービス

- 技術動向調査
- 出願前先行技術調査
- 侵害予防調査
- 無効資料調査
- 侵害予防調査

お客様

- 市場調査
- 企画立案
- 開発
- 設計
- 製造
- 販売
- 改良

特許出願

警告訴訟

特定登録調査機関 先行技術調査

審査に使われるのと同様な先行技術調査報告で様々な権利獲得戦略検討が可能です

出願人

- 1 出願
- 2 調査依頼
- 3 調査報告の提供
- 4 審査請求 or 取り下げ
- 5 報告書

特許庁

詳細は <https://www.tectra.jp/> へ

当事業体での魅力 “調査能力を活かした弁理士”

特許調査を自ら行う弁理士は一般的には多くありませんが、優れた特許調査のスキルは弁理士業務においても非常に有用ですので、当事業体では弁理士自身も調査スキルを持つことを奨励しております。

今回ご紹介させていただく当事業体所属の 高井弁理士・大久保弁理士は、登録調査機関での検索者を経て弁理士になった者であり、特許調査のプロでもあります。

特許検索競技大会という日本で唯一特許調査の実務能力を評価する大会が毎年行われておりますが、2022 年に高井弁理士は電気分野にて、大久保弁理士は機械分野にてシルバー認定を獲得することができました。

弁理士の高井英樹です。

当事業体は、調査能力を強みとした知的財産サービスを提供する事業体です。明細書の作成、中間処理、登録後の取消、無効化等の業務に、調査能力を活かすことで、品質の向上を図っています。当事業体に所属する弁理士の一員として、また調査員の一員として、特許調査に魅力を感じながら、日々の業務を行っています。以下では、私がこれまでに担当してきた特許調査に関する業務を紹介し、これを通して、当事業体の強みである特許調査の利活用をご提案させていただきます。



登録調査機関とは、特許庁の依頼を受けて、審査に必要な先行技術調査の一部を実施する調査機関ですが、私は、この登録調査機関の検索者として知財業務を開始しました。

その後、「電子商取引」と呼ばれる技術区分の検索者、及び検索指導者として検索業務に関わってきました。「電子商取引」とは、インターネットを介した商取引に関する発明の他、検索システム、医療・福祉システム、ビジネスモデル特許などを含むソフトウェア関連発明を対象とする技術区分であり、電子商取引は、IoT (Internet of Things)、MaaS (Mobility as a Service)、深層学習 (Deep Learning) 等の技術の発展を、先行技術調査という業務を通して実感することができる技術区分です。登録調査機関の検索業務を通して得られた経験や知識は、弁理士業務を行う現在の私の基盤を形成していると感じています。

現在は、登録調査機関の経験を活かし、弁理士として特許調査を行っています。例えば、明細書を作成する前に、出願前調査を行いますが、これにより、先行技術に対する差別化を図り、特許性の高いクレームをご提案させていただくことができます。また、登録後の特許について、特許異議の申立てや、無効審判を請求する場合があります。このような場合、異議申立て書や審判請求書を作成する前に、取消・無効資料調査を行います。これにより、有利な証拠を抽出することで、特許の取消、又は無効化の可能性を高めることができます。

この他に、侵害予防調査のご依頼を受ける機会もあります。侵害予防調査とは、新製品を市場に投入する際に、第三者の特許権等を侵害しないか確認するために行われる調査です。侵害予防調査は、出願前調査と比べて、調査範囲の設定が難しいと言われています。第三者が有する特許権が、顧客のビジネスに及ぼすリスクを想定しながら調査観点を決定し、調査範囲を設定する必要があるからです。発明からクレームを作成するという弁理士としての業務経験を活かして、高品質の侵害予防調査サービスをご提供させていただきます。

技術力を有する企業にとって、特許権を取得することが重要であることは、言うまでもありません。特許権の効力である独占実施権は、競合他社に対する強みを生み出すことができるからです。一方、特許調査は、競合他社の特許技術に対する差別化や、自社が有するリスクを評価するための情報資源を提供することができます。知的財産サービスをご希望の際には、特許事務所による弁理士業務と、調査会社による調査業務の両方を行うことができる当事業体に、ご用命いただければと思います。

私は、特許調査の仕事に魅力を感じており、登録調査機関の検索者として検索業務を行いながら、弁理士試験に合格し弁理士登録を行いましたが、これからも、特許調査の業務を続けていきたいと考えています。私は、先日実施された特許検索競技大会において、シルバーの認定をいただくことができましたが、今後も、特許調査能力の向上を目指して、精進して参ります。

秋山国際特許商標事務所 弁理士 高井 英樹
特許検索競技大会 2022 シルバー認定（電気分野）

弁理士の大久保真己です。

私は 2013 年から当事業体の登録調査機関部門にて、検索者として先行技術調査を担当しておりました。検索者として勤務する中で、もっと知財スキルを向上させたいと思い、弁理士資格の取得を目指しました。無事に一回で合格することができ、2022 年から弁理士として明細書作成や中間対応業務に日々励んでおります。また、無効資料調査や技術動向調査等の調査業務も併せて行っており、調査能力を向上させるために 2022 年の検索競技大会に参加して、シルバー認定を受けることができました。



登録調査機関の先行技術調査の分野は、技術分野毎（39 区分）に分かれています。

私は、登録調査機関の検索者として約 9 年間先行技術調査を行い、数多くの技術分野の調査資格を取得しました。担当した技術区分の分野は、主に事務機器、自然資源等の機械分野、プラスチック工学等の化学分野ですが、中でもメインで担当していた『玩具』のテーマは、機械分野、電気分野、化学分野の全てを網羅する分野です。調査範囲が多岐にわたるため、調査のスキルを向上させることができたと感じております。『玩具』というと、子供向けのかわいいおもちゃをイメージする方も多いかと思います。しかし、例えばペットのような可愛らしい見た目のぬいぐるみに、ありとあらゆる最先端の技術が詰まっていることも多く、そのような場合はアミューズメントとしての“おもちゃ”にとどまらず、ロボット制御・人工知能・IoT 技術、また素材であれば化学分野まで幅広くサーチをする必要があります。

特許調査では、特許分類（IPC、FI、F ターム、CPC 等）の選定が重要になってきます。ここで効率的かつ漏れのない検索を行うためには、各分野における適切な特許分類を見つけなくてはなりません。また、新規発明の先行技術調査や侵害予防調査等を行う場合は、特許分類の付与がされていないため、発明の本質を理解し、どの技術分野に属するのかを見極める必要があります。

今進化している技術には、複数の分野の技術が組み合わさった発明が多くなってきています。また、発明を今までの技術分野以外にも活用して、新たな用途を開拓していきたいというニーズも高まってきています。そこで、出願に向けて新規発明の調査をする場合や、他の分野の技術を調査する場合には、広い技術分野を視野に入れ、それぞれの分野の動向を踏まえて調査していきます。そして、新たな技術分野の提案や、意匠や商標も検討して包括的に知的財産権を保護していくよう、常に幅広い視野を持って出願や調査業務を行い、お客様に喜んでいただけるよう精進していきたいと思います。

秋山国際特許商標事務所 弁理士 大久保 真己
特許検索競技大会 2022 シルバー認定（機械分野）

IPデータ集 No.13 のご案内

当事業体では 2013 年より年に 1~2 回、特許に関するデータを集計・分析した冊子「IP データ集」をお客様に向け発行しております。

最新号となる No.13 の特集記事は、「中台における EV 分野の出願状況分析」、「感染症対策に対する特許技術動向」です。

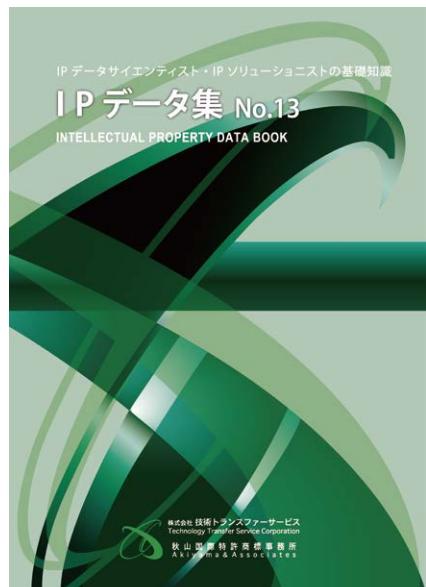
ご興味のある方も多いのではないでしょうか。

IP データ集ではひと味異なる、知財調査・解析のプロによる解析をお届けします。弊社ならではの技術解析を、楽しんで、またはお役立ていただけすると幸いです。

IP データ集 No.13 は当社ウェブサイトからご覧いただけます。



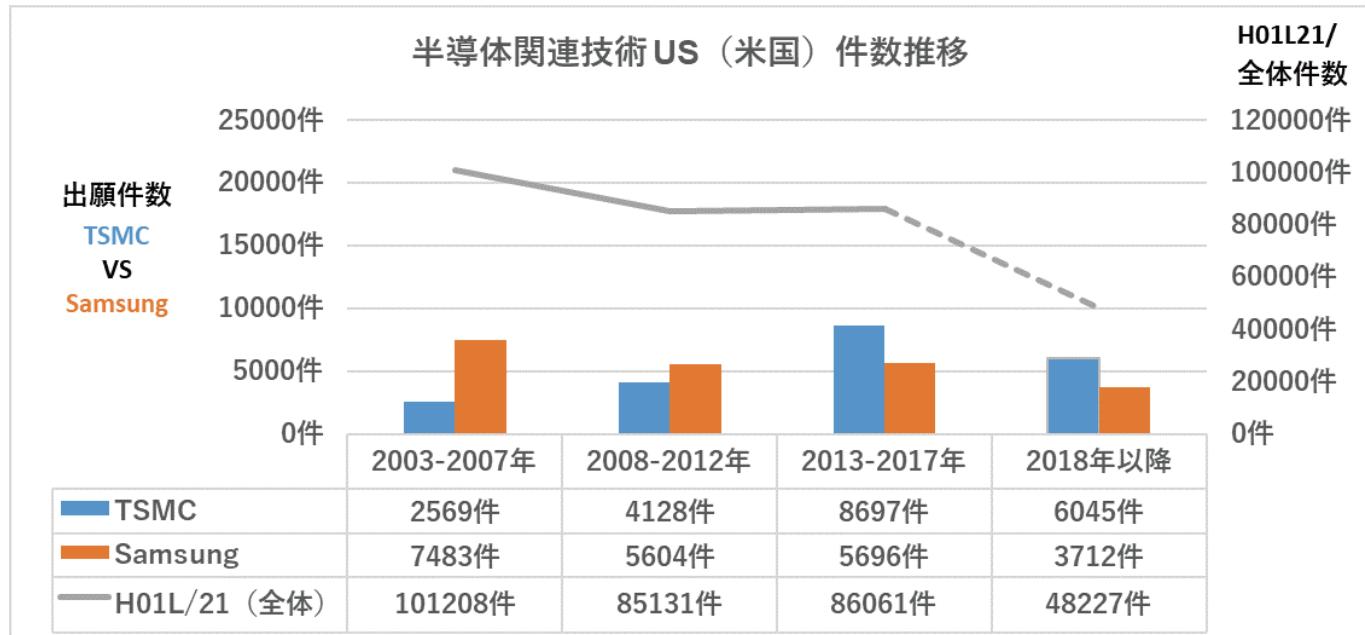
■ IP データ集ダウンロード専用ページ
<https://www.tectra.jp/ipdata/>



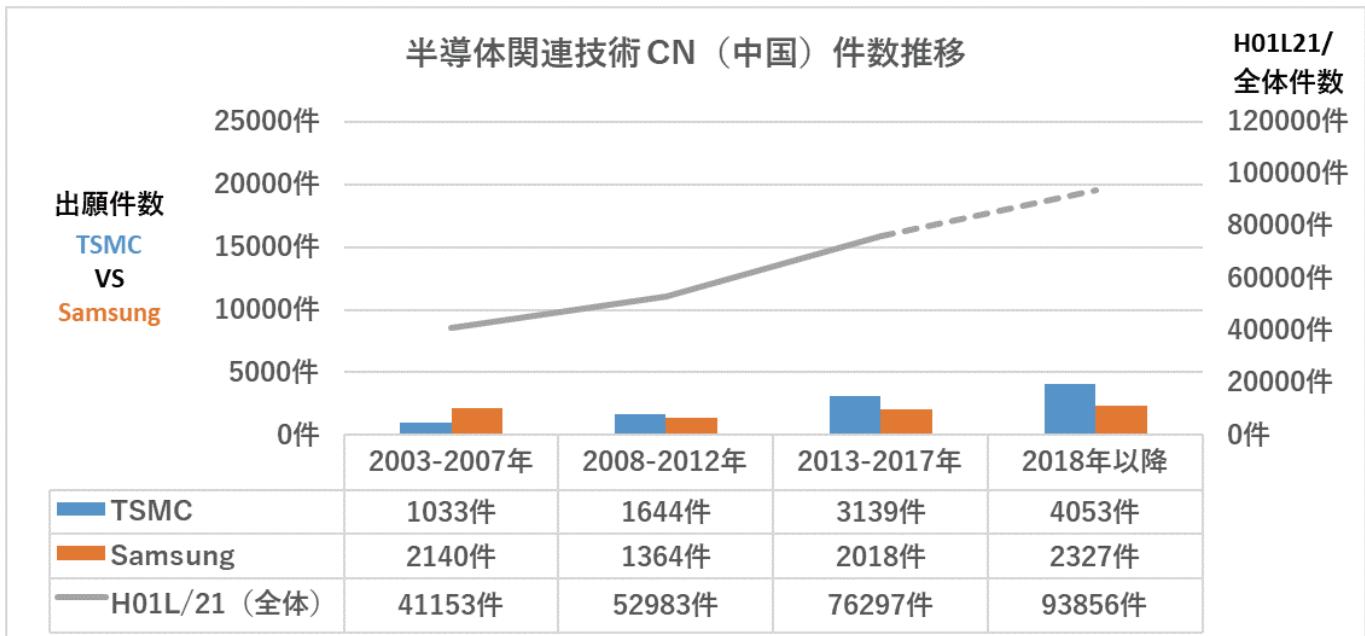
半導体ファウンドリー2社の出願動向

産業のコメと呼ばれている半導体ですが、昨今、自動車などの各種製品の生産に影響が出ていることや、日本でも Rapidus（ラピダス）が設立されるなど、ニュースで頻繁に目にします。

今回、半導体ファウンドリー世界ランク 1, 2 位の TSMC（台湾積体電路製造）、サムスン（Samsung Semiconductor）の半導体製造関連技術の世界への出願状況を調べてみたのでレポートします。

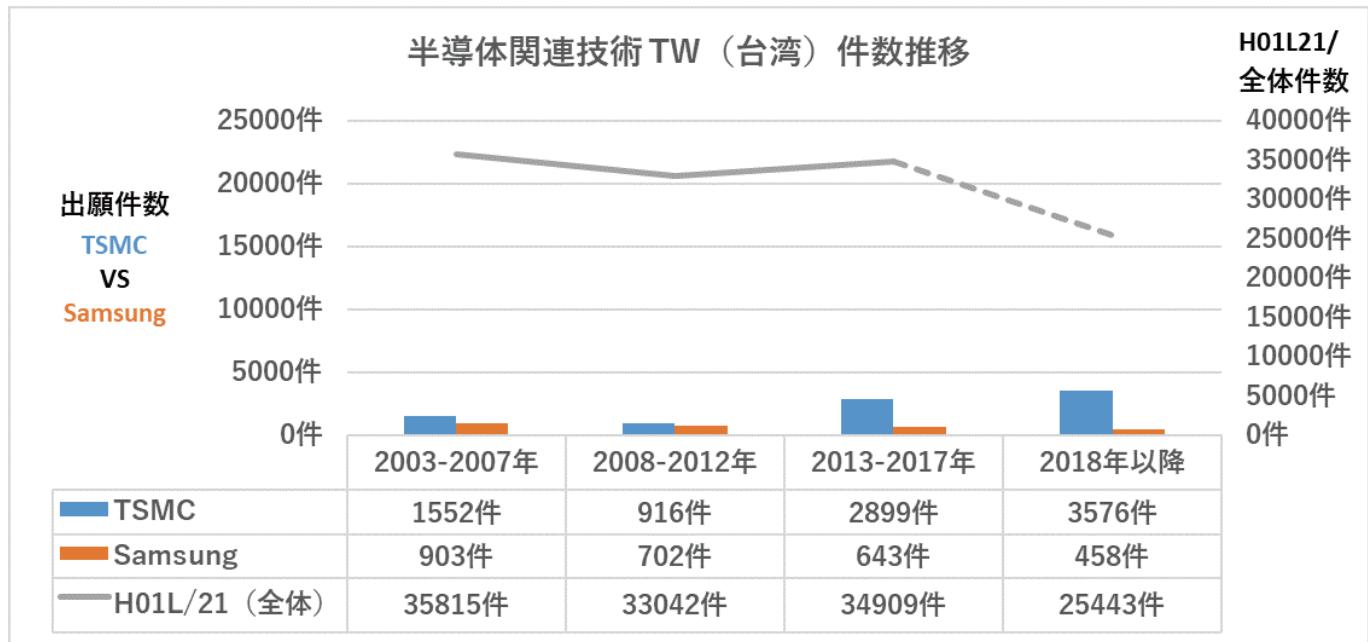


※優先権主張年（最先）ベース。2018 年以降の件数は未確定（今後未公開分の件数が増える見通し）。

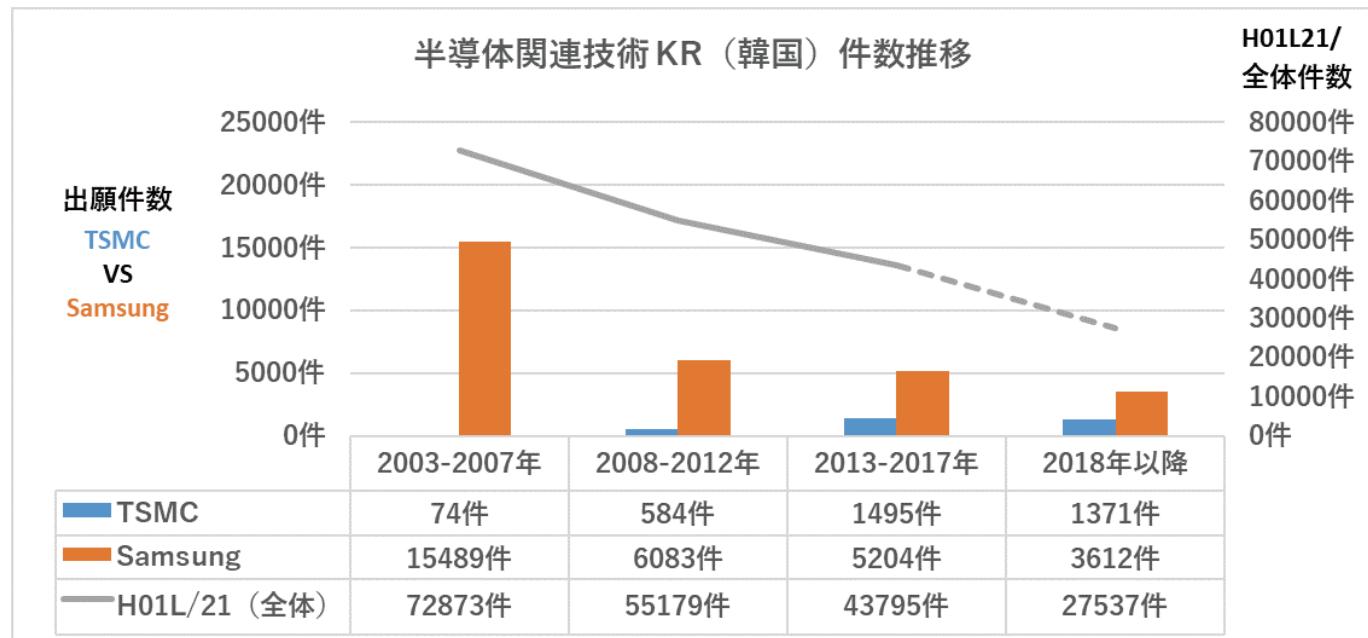


米中を比較すると、半導体製造関連技術の全体件数はここ 10 年で中国が米国を逆転し、なお増加の一途を辿っています。ただ、TSMC とサムスンに限ってみれば、全期間で米国の件数の方が中国より多く出願されており、TSMC とサムスンにとって米国が今もなお最重要視されている地域であることが推測されます。

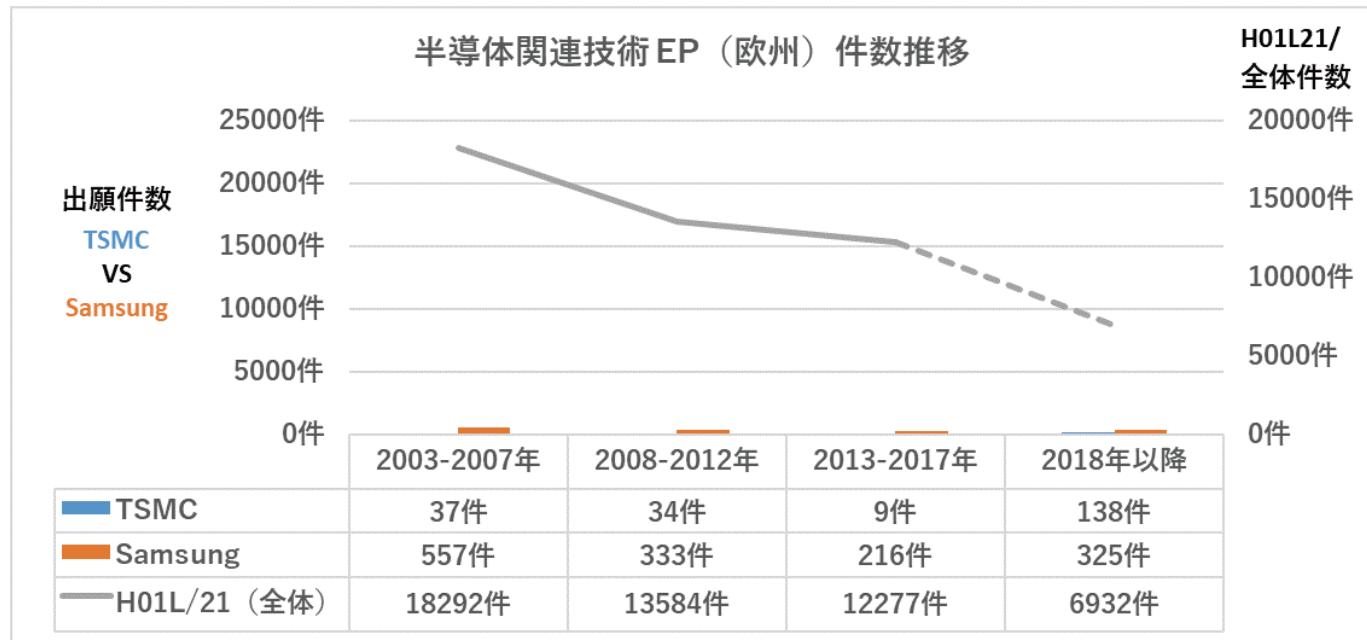
TSMC とサムスンの件数を比較すると、ここ 10 年で、米国でも中国でも TSMC がサムスンを逆転しており、出願件数でも TSMC の勢いを感じられます。



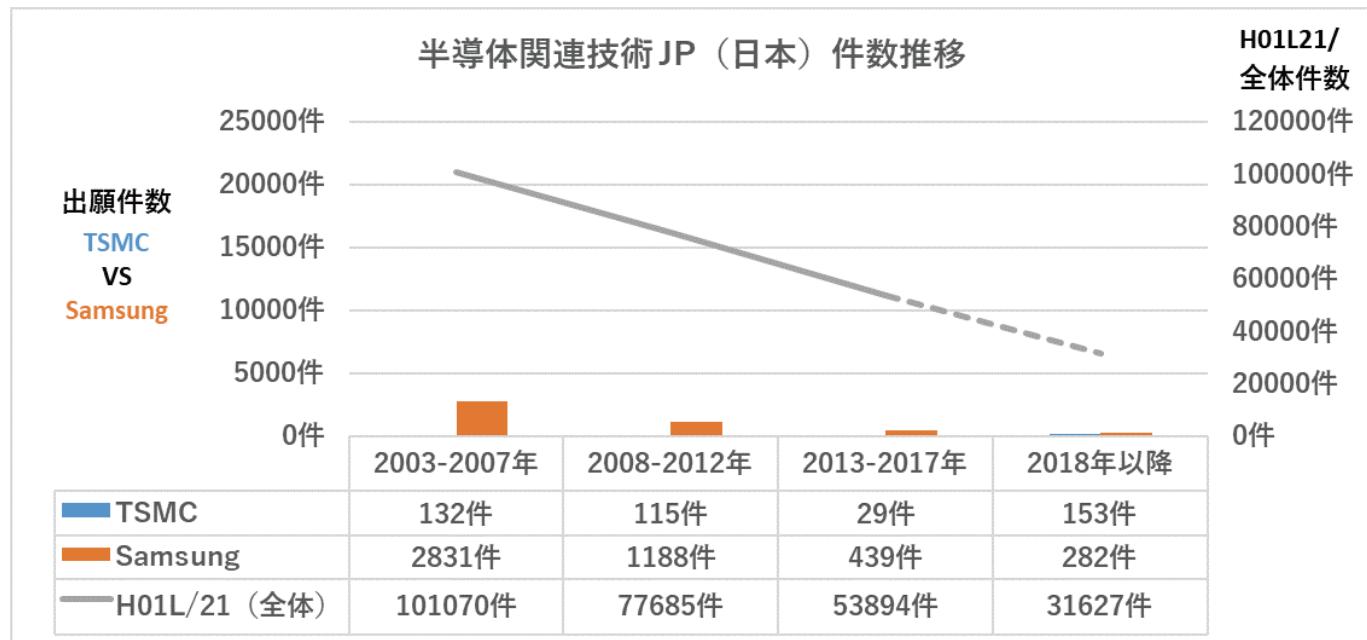
※優先権主張年（最先）ベース。2018 年以降の件数は未確定（今後未公開分の件数が増える見通し）。



両者の本拠地である台湾と韓国では、それぞれ競合よりも自社の件数が多く、順当ではあります。サムスンは、他地域に比較して韓国出願を大幅に減らしており、出願のグローバル化が進められていることが伺えます。TSMC は、後述する欧州や日本より明らかに韓国へ多く出願しており、サムスンを牽制する狙いで出願している可能性もありそうです。



※優先権主張年（最先）ベース。2018年以降の件数は未確定（今後未公開分の件数が増える見通し）。



欧州や日本では、TSMC やサムスン共に、他の国と比べて明らかに少ない結果となりました。特にサムスンは、日本をパッシングしていることが明らかです。一方で、TSMC の欧州での件数は 2018 年以降に急増、日本においても増加傾向にあり、ドイツや日本に工場を建設すると報じられたニュースとの関連性が想定されます。

米中の対立の中で、TSMC、サムスン、共に米国や欧州などで、補助金含みで工場誘致が行われ、建設計画が報じられています。今後の地域別の出願動向に影響を及ぼすのか、興味深いところです。

また、今回は半導体製造関連技術という大きくくりで調査しましたが、微細化技術などに焦点を当てるとまた違った傾向が出るかもしれません。

株式会社技術トランクアーサービス 調査部

特許調査に関するお問い合わせは、株式会社技術トランクアーサービス 03-5574-7051 までお願い致します。

登録調査機関部門 検索者のこぼれ話①（区分18：熱機器分野）

数年前に見たテレビ番組で、赤道付近に存在し、かつ現代文明とは接觸していない集落の一人が、東京にホームステイするというものがありました。その人が東京に訪れた日は、雪の降っている日で、スタッフに「この空から降っている白いものはなんだ？」と聞いたところ、スタッフは「雪と言って、水が冷えて固まつたものです」と回答しましたが、「私には、何を言っているのか理解できない」と言っていました。水が冷えると氷になるという現象自体を知らなかったのです。

私たちは、物心がつく頃には冷蔵庫が身の回りにあつたので、水を冷やして氷を作るということは、当たり前なことのように思えます。しかし、実は「モノを氷点下に冷やす技術」、すなわち冷凍機の技術は、現代文明においてあまり多くの種類がありません。

赤道付近のように、水が氷点下に冷やされるような自然の環境がない場合だと、現代文明を取り入れなければ、水が固体に状態を変えること自体を知らないことは、逆に当然のことなのかもしれません。

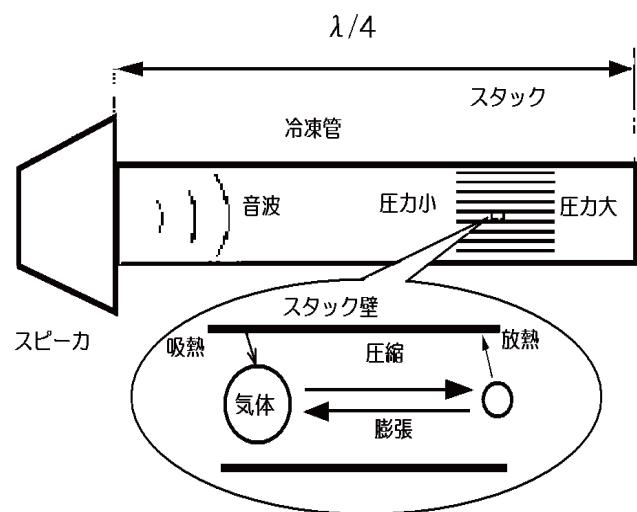
冷凍機の技術には、あまり種類が多くないといいましたが、その中でも代表的な技術が、冷蔵庫やエアコンに使用される「蒸気圧縮冷凍サイクル」と呼ばれるものです。身の回りのほとんどの冷凍機が、この技術を利用しています。「蒸気圧縮冷凍サイクル」は、低温で蒸発する液体（以下、冷媒といいます）が、蒸発するときに周りから熱を奪うことで、周りを冷やすというメカニズムを利用しています。この技術には、上記の「冷媒」が必要となるのですが、その冷媒が厄介者として、有名なのがオゾン層を破壊する原因となる「フロンガス」です。技術の進歩に伴い、オゾン層を破壊しない冷媒というものが開発されたのですが、その冷媒も地球温暖化への環境負荷が大きいといった課題を抱えており、環境負荷の小さい冷凍技術が求められています。

前段が長くなりましたが、今回は「蒸気圧縮冷凍サイクル」ではない、環境負荷の小さい冷凍技術の一つである、「熱音響冷凍」についてお話ししたいと思います。

熱と音との間には、互いに変換を行う作用があり、管の一端を加熱すると管内に音が発生したり、管内に音を入れると管内で冷却作用が発生したりします。特に、後者の音で冷凍する現象を利用した冷凍機のことを「熱音響冷凍機」と呼んでいます。

音の入力で冷却作用が発生する原理を紹介します（以下、日本冷凍空調学会の HP [https://www.jsrae.or.jp/annai/yougo/36.html] より摘記）。図に示すように、管の一端に音波を発生するスピーカをつけ、管の反対側

を閉端とし、管の内部の閉端に近い側にスタックとよばれる沢山の細かい平板や細管でできた熱交換器を挿入します。スピーカを丁度管内で共鳴するような音波でならして管内に音を入れると、管内に $\lambda/4$ 波長の定在波ができる、スタックの左側の温度が下がり、右側が上がります。これは、スタック内の気体の小さな部分に注目すると、気体塊が音波により圧力の高い右側に移動させられ圧縮されて体積が小さくなり、断熱圧縮で温度が上がりますが近くのスタック壁に放熱して温度が少し下がります。その気体塊は再度音波により左側の圧力の低い側に移動させられ、このとき断熱膨張し温度が下がり、先ほどの温度が高い側でスタック壁に放熱して温度が下がった分だけ周囲より温度がより低くなる。この微少サイクルがスタック壁に沿って連なってバケツリレーで熱を運び、結局スタックの左端が最も低温に、右側が最も高温になるというものです。



いかがでしたでしょうか？熱力学の知識がある方だと、気体の圧縮と膨張を利用してある点に、どこか親しみを感じる方もいらっしゃるかと思います。原理は理解できなかったけど、この興味を持ったという方は、実際に工作をしてみてはいかがでしょうか？原理の理解ができるとともに、自分の力で冷凍機を作れたという、謎の達成感がありそうです。

この「音で冷却する技術」に、「熱から音を発生させる技術」を組み合わせた、可動部分のない冷凍機の研究も進められており、近い将来実用化される日が来るかもしれません。その頃には、関連技術の特許出願数も増えているでしょうから、それまでに基礎の理解を深めておかなければ！と思う今日この頃です。

登録調査機関部門 検索者のこぼれ話②（区分24：生命工学・医療分野）

区分24では、化粧料、食品といった非常に身近なテーマも取り扱っています。身近なテーマだけに内容自体は取り組みやすいのですが、形態を細かく区別すること、その中でも液体中に液体または固体を分散した分散液の形態が非常に多く、これらの区別となぜこのような形態が重要になるかが判りにくいことが最初の壁になるかと思います（私はそうでした）。

分散液は、サスペンションとエマルジョンに大別できます。サスペンションは液体に固体が分散したもので、エマルジョンは液体に液体が分散したものです。

今回は特に通常のエマルジョンの形態について、思いついたことを紹介します。

エマルジョンとは何か？ 極論すると、水と油が細かい分散状態で混ざり合い、一見すると水と油が溶け合っているように見える状態で、かつ長期間安定な状態のことです。水と油は基本的に混ざりません。激しく攪拌するとどちらかにどちらかが分散した状態になるのですが、時間がたつと水同士、油同士がくっついて2層分離します。一方で、牛乳、クリーム、マーガリン、マヨネーズなどは水と油が混ざっていますが基本的に2層分離しません。これは乳化剤（界面活性剤）という成分が油滴、または水滴を安定に閉じ込めるためです。これがエマルジョンの基本です。

水と油のエマルジョンは下記の二つに大別できます。

- 1) 水に油滴が分散している水中油（oil in water, O/W）
- 2) 油に水滴が分散している油中水（water in oil, W/O）

水中油の例としては、牛乳、クリーム、乳液、シャンプーなどがあり、外側が水なのでさらっとしていることが多く水で簡単に洗い流せるものになります。



油中水の例としては、バター、ヘアオイルなどが挙げられます。外側が油なのでべたつくことが多いですが水では落ちにくいという性状になります。

Q) ところで、マヨネーズは食物油を65%以上使用し、酢と卵黄などに混ぜて攪拌して製造しますが、水中油と油中水のどちらの形態になるでしょうか？

- A) 油が多くて、なんなくべたついているので油中

水と思いがちですが、実はマヨネーズは水中油です。この形態となることがマヨネーズの口当たりの滑らかさにつながっており、油中水のマヨネーズではマーガリンのようなもっと脂っぽい性状になるそうです。

Q) ではなぜ、マヨネーズは油が65%以上と多いのに水中油という形態で安定になるのか？

A?) これを簡単に説明するのは非常に難しいです。一番に思い浮かぶことは製造方法です。食塩と香辛料を混ぜた酢と卵黄の中に少しずつ植物油を加え強力に攪拌することで、水中に小さい油滴が形成され、そのためある程度油を多く添加しても安定な油滴の状態が保たれると考えられます。実際に攪拌が弱い場合や、油の添加速度が速い場合には、油滴が凝集して2層分離するので製法の重要性は理解できるかと思います。

もう一つは使用する成分の特性です。特に、卵黄にはレシチンという乳化剤と、油滴を安定化させるコレステロールが存在しています。さらに、これら以外に糖類などの増粘性成分が水の中で油滴が凝集するのを防ぐ場合もあります。マヨネーズは古くから知られたソースですが、植物油と酢と卵と塩と香辛料というありふれた素材から、各素材の使用量と、油の添加速度と、攪拌速度、これらをおそらく絶妙なバランスで組み合わせて出来たものになります。当然ソース作りの長い伝統の過程で産まれたものではありますが、従来のソースから口当たりの良いマヨネーズ（エマルジョン）という形態にするには多大な努力（失敗）が必要だったはずで、マヨネーズを作成した先人の努力と知恵には脱帽の思いです。

今回は、マヨネーズを例にとってエマルジョンの説明をしましたが、ほかにも様々な分野でエマルジョンは利用されています。特許出願書類にはエマルジョンに関してはさらっと記載されることも多いのですが、実際にはマヨネーズの場合と同じように安定でバランスの良い特定のエマルジョン形態にするために、様々な工夫が各社で細かく施されています。エマルジョンの背景と意義に注意を払いながら技術内容を読みとくことで理解の一助となれば幸いです。



社員紹介

■名前：M. T.

■入社：2008年3月

■担当業務：登録調査機関 区分7・区分15

区分15（搬送）には、前職で9年携わっていた昇降機の分野があります。業務を始める前は知っていることばかりで余裕なのでは？と思っていましたが、いざ出願発明に取り組むと知らないことばかりで、目論見が外れ戦苦闘しています。

■最近ハマっていること

僕はパーソナルスペースが広いので、空いている電車でも座ることなくいつも立っています（笑）。

そんな僕の電車時間の最近のお供は「村上春樹」です。妻が長編を全て読破しようとしているのを見て、僕も便乗り後追いするように読み始めました。

その後、「ノルウェイの森」「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」「海辺のカフカ」など長編を読みすすめ、この文章を書いている今は「羊をめぐる冒険」を読んでいます。

数年前に「海辺のカフカ」を読んだ時には、意味

不明な話だなどの感想しか持たなかったのですが、今読むとなんとなく思うことも多く、自分も成長したのかな、と感じています。

また、物語に登場する主人公たちを見て、もしかして村上春樹は僕のことを描いているのではないか、と考えるようになりましたが、妻いわく「ハルキスト（=村上春樹ファン）はそう思う人多いらしいよ」とのことでの勘違いだとわかりました。

いずれにしろ、村上春樹のおかげで僕の通勤時間は楽しみなものになりました。ちなみに、僕はノルウェイの森の「みどり」が好きです。そして、週末にはハイネケンを飲みながら村上春樹の主人公を気取っています。

■無趣味な僕

読書のことを書きましたが、僕は無趣味です。一時期趣味を探そうと頑張ってみましたが、どうあがいても無理なので諦めました。

しかし、高2になる娘の世話を焼きすぎるため、娘のことを心配することが趣味な気もしています。

お知らせ

特許検索競技大会2022アドバンストコース（主催：一般財団法人工業所有権協力センター）の結果について
「電気分野」においてシルバー認定（2名、うち弁理士1名）、「機械分野」においてシルバー認定（弁理士1名）
およびブロンズ認定（弁理士1名）を授与されました。

編集後記

ニュースレター第12号いかがでしたでしょうか。

今回は常時変化する知財戦略、当事業体での魅力“調査能力を活かした弁理士”、半導体ファウンドリー2社の出願動向特許調査の記事などをお届けしました。執筆や編集にご協力いただいた皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

この冬はとても寒く、インフルエンザと新型コロナの両方が流行っているようです。皆様、お身体にはくれぐれもご自愛くださいませ。

編集委員一同

会社・事務所情報

 株式会社技術トランസ്ഫｧｰｻｰﾋﾞｽ
秋山国際特許商標事務所

□東京 〒107-6033 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル31階・33階 私書箱575号

□大阪 〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB11階

株式会社技術トランസ്ഫｧｰｻｰﾋﾞｽ：TEL 03-5574-7051（代表）

秋山国際特許商標事務所：TEL 03-5574-7055（代表）

URL <https://www.tectra.jp/>

